



有田史談会

月例通信

残暑お見舞い申し上げます



酷暑の夏が続いています。今年は、早い梅雨明けの直後から一気に気温が上がり連日の酷暑が続いています。10月頃までは暑い日が続くことが予想され、熱中症予防を心掛けながら無理をせず過ごしたいものです。

余談ですが・・・

最近の我が家では「シニア体操」を動画で見ながら夫婦で20~30分の体操を行っています。日々衰えている筋力を出来るだけ維持できるよう心掛けています。有田町では「通いの場」で週1回の僅かな体操に通っている人の筋力は確実に向かっているようです。介護保険の利用が増えれば、県民の負担割合は増えていくことになります。ちなみに、2024年度の47都道府県の社会保険料(医療保険、介護保険、年金)負担割合ランキングによると、佐賀県は41番目にランクされていますが、日頃からの健康のために体力向上への取り組みが実践されてきたを証明しています。

有田史談会も年々高齢化による体力の低下は著しく対岸の火事と傍観する訳には行きません。日々簡単な運動を実践し、体力の向上を目指しましょう！



特別講座

令和7年8月29日
「日本磁器生産の始まりと海外輸出」



大橋先生の特別講座を8月29日(金)に開催しました。正午からレストランまるいしにて昼食をとり大橋先生を交え楽しい歓談のひと時を過ごしたあと、13:30から生涯学習センターへ移動し、3F会議室にて「日本磁器生産の始まりと海外輸出」の演題で講演いただきました。九州国立博物館へ寄贈された「小郡C.C.コレクション」の作品を紹介しながら有田との接点を探るもので、1660年代にインド向けに作られた有田の磁器と推察される内容で、興味深い講座になりました。

[開館45周年記念 特別企画展]

初期伊万里ビッグバン

有料

–日本磁器始まりの全貌–

10.4土–12.7日 第3・4・5展示室

今から約400年前、肥前地方では突如として白く硬質な磁器が開発され、産業として急速に発展しました。その最初期には多久や伊万里で磁器の開発が試みられ、有田に移って爆発的に生産が発達したことが明らかになってきました。本展覧会では現代を生きる私たちをも魅了する初期伊万里の優品と草創期の資料を通じて、これまでの研究成果をもとにその起源と発展の真相に迫ります。

10月には九州陶磁文化館にて「開館45周年記念 特別企画展 初期伊万里ビッグバン」が開催されます。10月5日(日)14:00~15:00には大橋先生の「肥前磁器始まりの全貌」に記念講演も予定されており、都合のつく方は是非ご参加下さい。

また期間内に、学芸員の解説を頂きながらの鑑賞も計画していますので、楽しみにお待ち下さい。